

【第113回生涯教育講座】

島根における地域医療人材育成の取り組み

たに ぐち えい さく¹⁾ さ の ち あき ひ だか み さ え²⁾
 谷 口 栄 作¹⁾ 佐 野 千 晶¹⁾ 日 高 美佐恵²⁾
 なか はた のり こ¹⁾ よし おか みちこ¹⁾
 中 畑 典 子¹⁾ 吉 岡 みち子¹⁾

キーワード：地域医療人材育成，地域医療教育，地域枠，
 地域医療支援センター，総合診療専門医

要 旨

島根大学医学部は、医療機関、医師会、行政等と連携して、オール島根で地域医療を担う医師の養成に取り組んでいる。卒前教育では、全国に先駆けて地域医療教育の充実や入試制度の改革を行い、卒後教育では一般社団法人しまね地域医療支援センターを共同設置して、若手医師のキャリア支援、初期臨床研修の充実をはかり、また、新専門医制度に向けて、大学内に卒後臨床研修センター専門研修等部門を設置し、後期臨床研修医の研修プログラムと研修環境の充実に向けた取り組みを行っている。

はじめに

昭和35年以降、島根県の10万人対医師数は、全国平均より低く推移してきたが、昭和54年に島根大学医学部（以下「本学」という）の前身である島根医科大学医学部附属病院が開院して以降、全国平均を上回り推移している。近年40数年間で県内医師数は2倍となり、平成26年の10万人対医師数は279人で、全国第13位である。

また、島根医科大学開学から41年が経過し、35期3,353人の卒業生を送り出し、800人程度が、本

学をはじめ県内の市中病院、診療所等で活躍しており、本学卒業生の全県医師1,947人に占める割合は約40%である。さらに1期生の現役入学者は現在59歳であるが、県内59歳以下医師1,431人の約60%を本学卒業生が占めている。このように島根県内の医師数は増え、県内で働く本学卒業生の数も増加している^{1,2)}。

しかし、県内医師の地域偏在は年々進んでおり、県内の7つの2次医療圏域別にみると、県庁所在地の松江と大学のある出雲を除く地域では、医師不足が深刻となり、医師の高齢化も進行している。一方、診療科別医師数をみると、外科、産婦人科など減少している診療科があり、診療科による医師数の格差もみられる。

本学では、地域医療人材育成のニーズを受けて、

Eisaku TANIGUCHI et al.

1) 島根大学医学部地域医療支援学講座

2) 飯南町立飯南病院

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部地域医療支援学講座